

# 博物館だより

No.20

平成 19 年 12 月 1 日  
 みやこ町歴史民俗博物館発行  
 福岡県京都郡みやこ町豊津 1122-13  
 TEL 0930-33-4666  
 FAX 0930-33-4667

## 歴史たんけん 作文コンクール 入賞者決定!

博物館友の会とみやこ町教育委員会が共催で実施した「夏休み小学生歴史たんけん作文コンクール」の入賞者が決定しました。今回で12回目となるこの作文コンクールには、125点の作品が寄せられました。どの作文も大変よく書けていましたが、その中でも特に優れた7点が今回の入賞者として選ばれました。

各賞の受賞者は次のとおりです。

◎最優秀賞 (1名)

椎田小学校6年 河津景明  
 「城下町掛川を築いた」

戦国武将山内一豊

◎優秀賞 (6名)

★今元小学校5年 川平梨乃  
 「文久の歴史について」

★行橋北小学校5年 久富浩明  
 「争いのない世界」

★豊津小学校6年 進雅紀  
 「長崎・広島・戦争」

★豊津小学校6年 田中麻理香  
 「私のおばあちゃんの小さかったころの遊びと昔の遊びについて」

★泉小学校6年 林田彩花  
 「私の宝物」

★仲津小学校5年 宮川拓海  
 「新田原の歴史を歩」

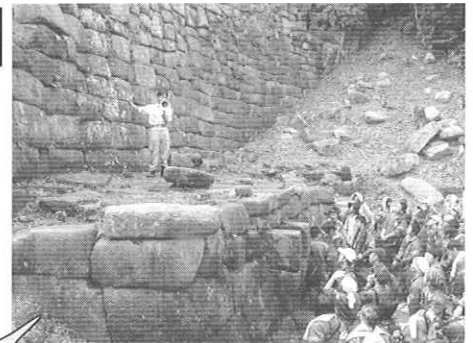
「争いのない世界」

### 11月の博物館をめぐるできごと



国分寺案内所前に消防車がせいぞろい

11月10日(土)、豊前国分寺跡公園内で「防火デー」に伴う防火訓練が地元第9分団(豊津地区)の皆さんによって行われました。訓練では境内の防災機器の点検と試験操作が行われ、三重塔付近で試験放水も行われました。



石積の迫力にみんな目を見張っていました(神籠石にて)



備え付けの防火機器の試験操作が行われました

11月8日(木)、犀川中学校の史跡ウォークが行われ、博物館の学芸員もガイドとしてお伴しました。全行程約10キロのウォークでしたが中学生は元気一杯!



報告会は50人を超える参加者があり盛況でした

11月17日(土)館内研修室で「京築地方の最新発掘成果報告会」が開かれ、企画展に出品された資料について、調査担当者から最新の情報が紹介されました。

### 《古文書解読コーナー》

①

「ムント」前(ム)

②

「ムント」1000年20歳

③

「ムント」1000年5豊漁

④

「ムント」1年おき

⑤

「ムント」1000の納め時

◎ 答え

(反対向きに見て下さい)

- ① 前(ム)
- ② 1000年20歳
- ③ 1000年5豊漁
- ④ 1年おき
- ⑤ 1000の納め時

知つてゐるつもりヒト・モノ・コトに意外なドラマ

# みやこの歴史発見伝 ⑨

## 池をめぐる記録と記憶

～仙五郎一件とセンゴロウ池～

### 仙五郎一件

文政八年（一八二五）六月三日（新暦七月一日）、仲津郡本庄村（現在のみやこ町犀川本庄）で男六人によるケンカがあり、その内の一人、肥前国島原出身の仙五郎という人物が横死しました。仙五郎は本庄村に新しく造る池の普請（工事）に従事するため、遠く島原から来ていたのですが、酒屋で飲む内に仲間五人と口論になり、

袋叩きにあつたのです。仙五郎のケガは、見たところ頭に「少々」でしたが、医者が治療をする間に腹部の痛みも訴えはじめ、ついには亡くなつてしまつたのです。

### 本庄村新池普請

仙五郎が従事していた本庄村の池普請は、仲津郡（現在のみやこ町）と行橋市の一部）全体で行なう「郡中普請」として行なわれてい

書きたり上り下りも南池北池を築きしむるに  
不也所しはさるりし酒造りし浦に泉の源を  
後名湯領の中より仙五郎と申すものち本郷に  
おとよぶ所もあらずとも痛はれりしは是れ普請  
の事故也本用はれりしと痛もあらずとも  
長年を年いしやと云ふはむ死人は是れ本郷の  
あやむらひの文りも村中あやむらひの文りも  
也て本郷の浦にたたりしは是れ酒造りし浦に  
前めしと云ふはれりしと云ふはれりしと云ふ  
番人あやむらひの文りも本郷の浦にたたりし  
は是れ酒造りし浦にたたりしは是れ酒造りし  
浦にたたりしは是れ酒造りし浦にたたりしは  
浦にたたりしは是れ酒造りし浦にたたりしは

佐藤桓兵衛

▲本庄村庄屋による仙五郎一件の届出（永井文書「文政八年西日記」6月5日条）

たものです。工事内容は、総量約三三〇〇㎡の土砂を用い、延べ約五〇〇〇人の人夫を使って、延長一二〇m程の池土手を築く、というものでした。当時、池や道の普請で規模の比較的大きなものは郡全体で負担を分け合つて行なつていました。その方法には大きく二種類あり、一つは必要な労働力を手永（一〇数ヶ村をまとめた行政単位。仲津郡は五つの手永で構成）が直接提供する方法で、それぞれの手永は所属する村々に人数を割り当て、各村では指定された日に、指定された人数の村人を工事現場に出すのです。もう一つの方法は、労働力を提供するかわりに必要な費用を手永ごとに割り当てて、集まつた資金で人を雇い工事を行なう方法です。これを「土持請」（どもちうけ）または「つちもちうけ」といい、本庄村の新しい池はこの土持請で行なわれていたのです。仙五郎がどういふルートで遠く島原からこの工事のことを知つたのか分かりませんが、もしかすると池の築造など土木工事について熟知した「渡り」の職人集団が当時存在し、仙五郎はその一人だったのかもしれない。

### 郡奉行の忠告

ただ、この工事を土持請で行な



▲前田池（センゴロウ池）写真中央コップ形の池「本庄村大総図」（明治5年頃作成）より

うことについて、当時の仲津郡奉行（仲津郡の農村支配を担当する奉行）佐藤桓兵衛は、あまり良く思つていなかったようです。担当の大庄屋（手永の長）に宛てた手紙の中で「土持請にすると外見は良いが先々のためには良くないことである。村の為に土持請にしたところが、逆に「不為」にならないようにしなければならぬ」といった内容の忠告をしています。佐藤桓兵衛が、具体的に何を「不為」と考えたのか分かりませんが、仙五郎の横死事件は、偶発的にせよ、間違いなく「不為」なことでした。

### 池の名は……

仙五郎の一件が、最終的にどのようになり片付けられたのか今とこのろ分かりません。本庄村を管轄し

た大庄屋の日記を見ても、事後処理についての記述があまりに少ないのです。事件の内容からして、大庄屋は後始末に追われた筈なのですが……。もしかすると、事が大袈裟にならないよう、ごく内々に片付けたのでは、などと勘ぐりたくなります。

ところで、昭和三〇年代まで本庄には「前田池」という名の池がありました（住宅地造成の際に埋め立て）。しかし、地元では前田池という正式名称はあまり知られておらず、日常生活の中では殆ど通称でしか呼ばれることはありませんでした。

その通称を「センゴロウ池」と言います。さらなる検証は必要とありますが、おそらく、文政八年の仙五郎横死事件は、センゴロウ池（前田池）築造の際に起きたものでしょう。正式名称は土地の小字をとつて前田池ですが、酒を飲んだ上では言え、池普請のため遠く島原から来て当地で亡くなった仙五郎の記憶が、池の通称という形で残つたのではないのでしょうか。あるいは、通称とすることににより、仙五郎の霊を供養する意味があつたのかもしれない。

（川本英紀）

【典拠史料】永井文書二三四号「文政八年西日記」（九州大学記録資料館所蔵）